

地域学習における I C T 機器の活用と実践事例

長野大学前川道博ゼミ

小林 陽

ICT機器を用いた教育支援

目的

ICT機器を用いた効果的な学習方法を考える
地域ぐるみの地域探究授業を行う

- 教育支援段階
 - ① 地域探究
 - ② 写真、Webを通じた表現
 - ③ 協働学習

須坂小学校教育支援

対象：須坂小学校 2 年生（36人）

時間：1・2限（合計90分）×2



①地域探検

実際に地域に出て写真を撮る

②写真・WEBを通じた表現

写真を選択し、須坂中央地域デジタルマップへ投稿

③協働学習

投稿した内容を共有する

須坂小学校教育支援

①地域探究

児童の様子	
積極性	非日常体験を楽しんでいる様子が見られた
創造性・協力	写真の撮り方を工夫していた お互いにアイデアを共有していた
写真の選択	写真1枚1枚に対して感情、評価が多用であった
視点	メインの神社だけでなく空や植物・読めない漢字などに興味・関心を示す様子が見られた



地域探検の様子

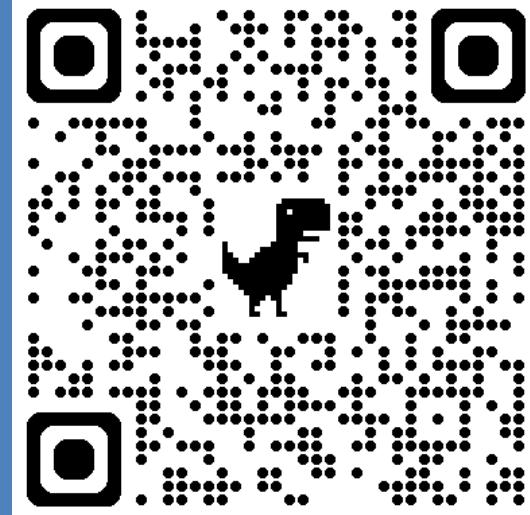
須坂小学校教育支援

②写真とWebを通じた表現 ③協働学習

児童の様子	
積極性	ICT機器に関して大きな興味を示した
創造性	知っている言葉を使用し、様々な表現を行っていた
写真の選択	悩んでいる様子は見られなかった
児童の感想	大半が主体的な学びを楽しんでいた



投稿の様子



須坂中央地域□コモンズ

須坂小学校教育支援

考察

- **積極性**

→知識の獲得(知らない漢字を聞く、新しい知識を得る)

→参加率の高さ(地域の興味も促進)

- **主体的な学習と楽しさ**

→普段と異なるICT機器を用いた学習・地域探検に行くという行為が主体的な学びを促進している

鶴岡視察

目的

地域学習における望ましい学習支援のあり方を探求する
「蚕学習」の支援に市全体で取り組んできた鶴岡市を視察し、地域学習をどう支援するのが望ましいのかを考察する

主な視察先

鶴岡市教育委員会、鶴岡市市役所、鶴岡工業高校
鶴岡中央高校

鶴岡視察



鶴岡工業高校

- ・AI技術を用いた学習モデルの導入、
- ・地域のシルク産業の振興のためにクラウドファンディングの活用

鶴岡中央高校

- ・地元企業と連携し、生徒たちが主体となってシルク製品のPRや地域行事への参加
- ・シルクドレスの制作、ファッションショーの開催

鶴岡視察

鶴岡市では、シルクタウンプロジェクトがきっかけとなり、地元企業や地元住民との交流が増えている。

地域住民や地元企業、学校が協力し合い活動することで、豊かな学びが生徒に提供される。また、高校生が小中学校へ出前講座を行うなど地域全体でのつながりを感じた。

生徒が関心を持って取り組むためには、教える側である先生方が楽しんで地域学習に関わり、その楽しさや意義を生徒へ伝えることが不可欠である。

まとめ

- I C T 機器を用いた地域学習の発展のためには、教える側である先生方が関心を持つことが重要
- 地域学習において I C T 機器を活用する際、地域社会や学校外からの協力も不可欠である。地域と連携をとることで学びの場を広げることができる。
- 鶴岡で訪れた高校は工業高校などの専門的な学習形態だったため、地域学習に熱量を持って取り組むことができていたが、普通の学校で地域学習に重点を置いて取り組むことは難しいと感じる。
- I C T を効果的に活用することで、生徒たちの表現や主体性を高めることに有効である